

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第十卷 「人文科学（一の序）」

哲学、宗教、歴史、地理の序説、総記

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第十巻を成し、岩崎の言語の著作物のうち、哲学、宗教、歴史、地理に関する全般的述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 〇歳〜十九歳

第二編 二十歳〜二十九歳

第一部 我が哲学の根本構造 東大への置き手紙

第一章 東洋的実存、日本の実存の構築

第一節 「実存」と「本質」

第二節 東洋的実存、日本の実存の定義

第二章 我が哲学の諸側面

第一節 西洋哲学的側面 絶対者追求型

第二節 東洋思想的側面 汎神論的世界観

第三節 仏教的側面 中観、唯識、曹洞禅の日本的融合

第四節 神道の側面 原始アニミズムと原初感覚

第五節 日本哲学的、日本精神的側面

第六節 愛国的側面

第七節 愛郷的側面

第八節 個人的側面 精神障害者、巫女との交流と日本語

第三章 哲学を記述する日本語

第一節 西洋人の言語感覚と西洋語の流入への対応

第二節 「哲学」「宗教」「芸術」

第二部 私の人間観・日本観・共感覚観・精神病理観に影響を

与えた理論・学説

第三部 人物評論

第四部 日本的共感覚人間学研究会の発足

第三編 三十歳〜三十九歳

第一部 人間学・哲学全般

第二部 絶対的一者、総合芸術、総合感覚をめぐる東西・男女の哲人の苦闘

「ニーチェ、松原寛、巫女の対比を中心に」

第四編 四十歳〜四十九歳

第五編 五十歳〜五十九歳

第六編 六十歳〜六十九歳

第七編 七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作者が岩崎純一であるもの

第九編 著作者が岩崎純一であるもの

第一編 ○歳〜十九歳

編纂中。収録を待たれよ。

第二編 二十歳〜二十九歳

編纂中。収録を待たれよ。

第一部 我が哲学の根本構造 東大への置き手紙

第一章 東洋の実存、日本の実存の構築

第一節 「実存」と「本質」

第二節 東洋の実存、日本の実存の定義

第二章 我が哲学の諸側面

第一節 西洋哲学的側面 絶対者追求型

第二節 東洋思想的側面 汎神論的世界観

第三節 仏教的側面 中観、唯識、曹洞禅の日本的融合

第四節 神道的側面 原始アニミズムと原初感覚

第五節 日本哲学的、日本精神的側面

第六節 愛国的側面

第七節 愛郷的側面

第八節 個人的側面 精神障害者、巫女との交流と日本語

第三章 哲学を記述する日本語

第一節 西洋人の言語感覚と西洋語の流入への対応

第二節 「哲学」「宗教」「芸術」

第二部 私の人間観・日本観・共感覚観・精神病理観に影響を与

えた理論・学説

二〇一一年六月十八日 起筆、摺筆、公開

私のサイトやメインブログ（現在は第一巻…二〇一八年七月五日に追記）には、私が素人ながら大学・学会での講義・講演及び著書などで発表・展開させていただいた共感覚論・人間論・日本論に類似する学説が、過去の日本の各分野の知識人においてどのように展開されていたかについて、重要と思われるものをしばしば掲げている。

例えば、「共感覚」については、今や心理学・神経科学など、ほぼ理系の分野でのみ扱われているが、日本で初めて「共感覚」に興味を持たれたのは文学論・日本論・東洋思想論の分野であって、私はむしろそちらのほうに深い関心と共感を覚えるものである。

もともと、私は「日本的な何か」を「共感覚」や「鬱」などを通じて語り、それらを「日本の心の原風景」であると考えてきたが、過去の日本と東洋の知識人たちは、それらに当たるものを「日本の霊性」や「純粹経験」と言ったのだと思う。

少なくとも私の中では、私自身の共感覚（特に女性の性周期が色で観察される自分の共感覚）は、西洋的優生思想や直線のダーウイニズムに対しては日本のプロトアイデンティティ（原帰属性）として、ヘーゲルの弁証法に対してはベルクソンのなエランヴィタールないしニーチェ的な能動的虚無、マルキシズム的な唯物史観に対しては日本的な農耕文化のアプリオリな人間観だととらえられている。しかも、それが自分だけのものとは思えず、共感覚を持つ日本の発達障害者などにもそうとらえられているのだろうと感じられることがある。

「共感覚」や「鬱」といった諸感覚・諸精神症状というものはそのまま「日本的霊性」や「純粹経験」の別称として語り得るものである、とする私の考え方は、今後も私の人生の中で大きく変化することはないだろうと思う。

第三部 人物評論

二〇一一年六月十九日 起筆、公開

二〇一七年六月十日 最終更新

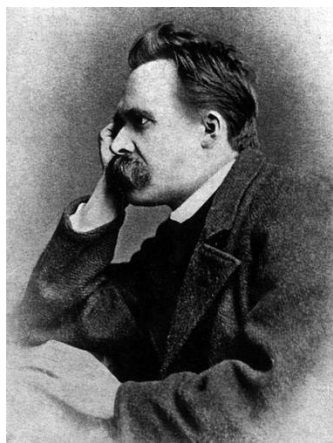
当「人物評論」の各ページは、旧第二ブログの記事の一部である。現在は各巻に分散して収録。

- 宮沢賢治
- 中村雄二郎
- 小室直樹
- 和辻哲郎
- 今西

- 錦司
- 三木成夫
- 井筒俊彦
- 梅棹忠夫
- 鈴木大拙
- 九鬼周造
- ニーチェ
- マルクス
- 木村秋則
- 梅原猛
- 藤原定家
- 小松英雄
- 石田吉貞
- 塚本邦雄
- 稲田利徳
- 高橋文二
- 高島元洋
- 朱捷
- 熊谷晋一郎



《宮沢賢治》Kamakura Museum of Literature archives 一九二〇年代



《フリードリヒ・ニーチェ》Photographer Gustav Schultze,

Naumburg, taken early September 1882. Nietzsche by Walter Kaufmann, Princeton Paperbacks, Fourth Edition.

第四部 日本的共感覚人間学研究会の発足

二〇一一年六月二十四日 起筆、擱筆、公開

「日本的共感覚人間学研究会」が立ち上がりました。

当研究会の下部研究会である「共感覚者唱歌の会」のコーナーには、メンバーの皆様と私とで本格的に詠み合った古典和歌を現代語訳とともに載せましたので、分かりやすいと思います。特に、最近行われました「新水無瀬恋十五首」の歌合では、他のお二方が本当に美しい歌を詠んでおられ、見ていて涙がでてきました。

私にとって、和歌における共感覚的な日本語は、日常の仕事の電話や大勢の人との会話よりも得意な「日本語」なので、今後の人生でこういう試みも増やしていきたいです。

第三編 三十歳〜三十九歳

第一部 人間学・哲学全般

二〇一四年八月二十五日 起筆
二〇一四年九月十八日 公開
二〇一七年八月十二日 最終更新
特設サイト「人間学・哲学全般」

私は、自分自身の知覚研究、言語考案、文明創作、神道・仏教研究、和歌、郷土研究などのあらゆる学術的行動を、総合哲学、いわば「人間学」であると考えているため、あえてこのページを設けています。このページから、特に皆様にご協力いただいている分野の特設サイトにリンクしています。

「岩崎人間学研究会」（個人交流会・勉強会から派生）として、当サイトの様々なコンテンツを制作してきました。

岩崎人間学研究会の概要・メンバーは、そのまま岩崎純一学術研究所のメンバーとなっています。

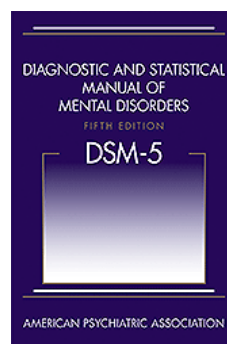
未来年表



寿羅穂里阿文明（岩崎式文明論）の創作



言語学・言語体系考案

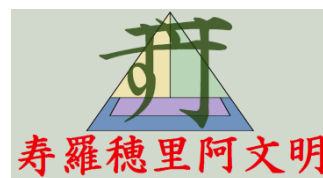


精神病理学・精神疾患の研究

和歌・古典



神道・仏教研究





郷土（岡山県）研究

大日本帝国陸軍岡山歩兵第十連隊・岡山近衛兵将校子孫会（岡将会）

大日本帝国陸軍
岡山歩兵第十連隊・
岡山近衛兵将校子孫会

第二部 絶対的二者、総合芸術、総合感覚をめぐる東西・男女の

哲人の苦闘

―ニーチエ、松原寛、巫女の対比を中心に―

本文ファイル別掲。掲載の経緯などの情報も同ファイルに記載。
二〇二二年四月十五日 ここに記載。本文ファイルを公開。